



題字は福島慎太郎初代理事長

公益財団法人
全国書美術振興会
会報
第 41 号
令和 6 年 2 月 1 日発行
発行者 (公財) 全国書美術振興会
編集責任者 片山 純一
東京都港区赤坂 2-11-1
デルックス溜池山王 6 階



私たちは「日本の書道文化」の
ユネスコ無形文化遺産登録を
応援しています。

「書道」がユネスコ無形文化遺産の日本提案案件に決定！

本年1月26日に開催された無形文化遺産保護条約関係省庁連絡会議において、「書道」をユネスコ無形文化遺産（人類の無形文化遺産の代表的な一覧表）へ提案することが決定した。昨年12月18日の文化審議会無形文化遺産部会の提案候補の選定を踏まえたもので、3月末までにユネスコに提案される。

登録推進運動の始まり

2009年に「中国書法」「中国篆刻芸術」が登録されて以来、「日本の書道文化」の登録の道

はないかとの検討が始まった。2014年には代表的な仮名書家（高木聖鶴、日比野光鳳、井茂圭洞）が当時の青柳正規文化庁長官に「書道」をユネスコに登録するための要望書を提出。翌年4月に日本書道ユネスコ登録推進協議会（発起団体は全国書美術振興会、全日本書道連盟、日本書芸院）が発足し、本格的に登録推進運動を開始している。

継承していくための保護継承運動に書道界は一丸となって取り組んできた。賛同団体署名運動、文化庁長官への要望書、有識者の推薦状手交、関西・成田国際空港での「日本の書道文化展」とワークショップの開催、「書道文化に関する基礎調査」「書道団体実態調査」実施と調査結果の冊子発行、講演会などを積み重ねながら、書道国会議員連盟の協力を得て、登録推進運動を継続してきた。

この間、政府では文化審議会が書道を含む生活文化をユネスコ無形文化遺産の提案対象とする方針の発表や、文化財保護法の改正により登録無形文化財制度が創設され、「書道」が初の登録無形文化財となるという流れもあり、10年近い運動が「書道」の提案案件決定に結び付いている。

提案決定の報を受けて
国の関係省庁連絡会議で提案



登録推進運動ポスター

運動のさまざまな取り組み
日本の書道文化は高い芸術性を持ちながらも、伝統行事や冠婚葬祭を通じて国民生活に根付き、文字文化としての長い歴史と伝統を支え続けてきた。この日本の書道文化を保護し、我が国の文化力、文字力を次世代へと力強く

案件決定の報を受けて、書道国会議員連盟の河村建夫名誉会長、塩谷立会長、運動を中心になって推進してきた協議会の荒船清彦前会長、田中壮一郎会長、井茂圭洞副会長をはじめ多くの書道関係者から喜びの声が届き、書道界一体となった慶事となった。

今後の登録に至るまでの流れは、本年3月に提案された後、現在、日本からの提案は2年に1回しか審議されないため、来年の令和7年3月に再度提案され、その後約1年半の審査を経て、最終的に登録が決定するのは翌年、令和8（2026）年の冬になる見込みだ。

登録後は、登録無形文化財「書道」の保持団体である日本書道文化協会（井茂圭洞会長）を中心に、日本の伝統的な書道文化の保護と共に、次世代へと継承していく活動が課せられる。

書道界挙げての慶事

田中壮一郎



田中壮一郎会長

このたび「書道」をユネスコ

無形文化遺産に、政府としてユネスコに対し提案することが決定しました。これまで登録推進運動を担ってこられた書道界を挙げて喜ばしいことです。書道界では、昨年の井茂圭洞先生の文化勲章受章、黒田賢一先生の文化功労者顕彰に続く慶事です。

登録推進のために平成27年に発足した日本書道ユネスコ登録推進協議会は、「つながる日本の書道文化 ユネスコの無形文化遺産に」のスローガンのもと、多くの書道展で登録推進のロゴマークをデザインしたポスターやバナーを掲示していただきました。また、1万4022件に上る賛同団体の署名、有識者の推薦状とともに、宮田亮平文化庁長官に要望書を手交するなど、活発に活動を行ってきました。さらに、多くの団体、個人による「日本書道ユネスコ登録推進基金」への基金協力や、3万個を超えるピンバッジ付き寄付も行っていました。

これらの活動により書道の重要性が多くの方々に改めて認識され、さらに書道国会議員連盟による力強いご支援もいただいた結果、令和3年に文化財保護法の改正により登録無形文化財制度が創設され、その第1号として「書道」が登録されました。この結果、ユネスコ無形文化遺産登録に必要な国内法による保護措置が講じられたこととなり、昨年5月からユネスコへの提案候補の審議を行ってきた文化審議会が、ついに昨年

12月に「書道」を次のユネスコ無形文化遺産の提案候補に選定し、本年1月の政府としての決定に至りました。

これまで長年にわたり書道のユネスコ登録に向けた運動にご協力いただいた皆様方に厚く御礼申し上げるとともに、この運動にお力添えをいただいた書道国會議員連盟の先生方をはじめとする関係各位にも深甚なる感謝の意を表します。

ユネスコでの最終的な決定は令和8年11月頃と見込まれており、皆様方におかれては引き続きのご支援ご協力をお願い申し上げます。

(公益財団法人全国書美術振興会代表理事・会長、日本書道ユネスコ登録推進協議会会長)

書道の未来に向けて

井茂 圭洞



井茂圭洞会長

「書道」がユネスコ無形文化遺産に提案されることの決定は、まさしく私の悲願でした。

2009年に「中国書法」がユネスコの無形文化遺産に登録されて以来私は「漢字は中国に

発したものであるが、日本には日本独自の仮名文字があり仮名書道がある。日本の書道もユネスコ登録を目指す」と決意しました。2013年、私の日本芸術院会員の就任祝賀会でもこの思いを公表しています。当時の仮名書道を代表する高木聖鶴先生、日比野光鳳先生に賛同をいただいて、要望書を文化庁長官に提出したものです。この活動は日本書道ユネスコ登録推進協議会の発足へとつながり、さまざまな運動が展開されていったわけです。

一方で、書道という日本の伝統文化をしっかりと保持し、次世代へとつないでいく活動は、国からも評価され、令和3年に「書道」は初めての登録無形文化財になりました。既に発足していた日本書道文化協会がその保持団体となり、会員による特別揮毫会や高校への会員派遣事業、「街なか書道体験」の実施、若手研究者・書家への「研究助成」などの活動を展開しています。

ユネスコ無形文化遺産登録は、伝統的な日本の書道文化を世界に発信すると同時に、日本の書道の保持、発展につながります。登録までまだ期間がありますが、登録後も見定めた活動が必要だと痛感しており、身の引き締まる思いであります。書道界のみならず、関係の皆様のご協力、ご支援をよろしくお願いいたします。

(文化勲章受章者、日本書道文化協会会長、公益財団法人全国書美術振興会名誉顧問)

ユネスコ登録推進運動の経緯（肩書は記載当時）

2014（平成26）年11月4日

高木聖鶴（文化勲章受章者）、日比野光鳳（文化功労者、日本芸術院会員）、井茂圭洞（日本芸術院会員）の3書家連名で「日本の仮名書道をユネスコの無形文化遺産に」という要望書を青柳正規文化庁長官に提出。長官からは推進母体となる団体が必要という指示を受ける。

2015（平成27）年4月4日

「日本の書道文化」をユネスコ（国際連合教育科学文化機関）の無形文化遺産に登録する目的で、「日本書道ユネスコ登録推進協議会」を発足。公益財団法人全国書美術振興会、公益社団法人全日本書道連盟、公益社団法人日本書芸院の3団体が発起団体となり、伝統ある日本の書道文化全体を伝承し保護するために、書道界を挙げての運動を開始した。

協議会会長に全国書美術振興会の荒船清彦会長、特別顧問に河村建夫書道国會議員連盟会長、松浦晃一郎第8代ユネスコ事務局長や各マスコミの代表者が就任した。協議会会議と実務

者会を重ね、運動の方針やユネスコへの提案のテーマ等を協議。

2016（平成28）年

3月、9月

47都道府県に地域代表委員を立て、全国規模の賛同団体署名運動を実施。最終的には1万4192団体から賛同団体署名を得た。書道国會議員連盟、44道府県知事、国立大学学長、自治体や教育界、文化施設や国際交流団体など幅広い賛同があった。

2016（平成28）年4月

登録推進運動にかかる経費を募るため「日本書道ユネスコ登録推進基金」を立ち上げ、主に読売書法会、毎日書道会、産経国際書会所属の会派、表具店、書道用品店に対し、基金依頼を行い協力を得た。

2016（平成28）年9月5日



宮田亮平文化庁長官に要望書・賛同団体署名を手交

宮田亮平文化庁長官に要望書、有識者6名からの推薦状、賛同団体署名を書道国會議員連盟と共に手交した。

2017（平成29）年2月22日

文化審議会は文化財保護法上の文化財に加えて、書道や茶道、華道など生活文化に関わる案件もユネスコ無形文化遺産の提案対象とする方針を公表。

2017（平成29）年6月16日

第45回「日本の書展」東京展記念講演会として「日本の書道文化とユネスコの無形文化遺産」と題し、松浦晃一郎氏（第8代ユネスコ事務局長、元駐フランス共和国特命全權大使）と愛川フオール紀子氏（元ユネスコ無形文化遺産担当部長、元文化庁無形文化遺産アドバイザー）の対談を開催。



第45回「日本の書展」東京展 記念講演会 松浦氏と愛川氏の対談

2017（平成29）年
2018（平成30）年

協議会役員16名の書家が新作を出品した「日本の書道文化展」を関西国際空港と成田国際空港ギャラリーで開催。毎日多くの日本人、外国人が行きかう会場でも「日本の書道文化」の素晴らしさを見てもらい、実際に書を体験してもらった。



成田国際空港 NAA アートギャラリーでの「日本の書道文化展」体験コーナー

議会では、ロゴマークをデザインしたピンバッジを作成し、「記念品付き寄付」という形で活動資金の協力をお願いした。500円の寄付につきピンバッジ1個を記念品として贈呈することとし、用意した3万個超を4年間で終了した。



ピンバッジ

2020（令和2）年
文化庁の「令和2年度 生活文化調査研究事業（書道）」のアンケート等に協力。

2020（令和2）年6月11日
～6月21日

国立新美術館で「日本の自然と書の心『日本の書200人選』東京2020大会の開催を記念して」を開催。主催は東京2020オリンピック・パラリンピック記念書展実行委員会、文化庁、独立行政法人日本芸術文化振興会で、実行委員会の構成団体の中に全国書道文化協会



日本の書200人選 会場

と日本書道ユネスコ登録推進協議会も入る。

2020（令和2）年11月11日
文化審議会文化財分科会で文化財保護方策の審議を開始。ヒヤリングにおいて高木聖雨ユネスコ協議会副会長が文化財保護法の改正を要望。

2021（令和3）年1月15日
文化審議会文化財分科会が文化財保護法改正等を提言。

2021（令和3）年6月14日
文化財保護法改正案が成立、施行。登録無形文化財制度が創設。

2021（令和3）年8月26日
日本書道文化協会設立。井茂圭洞氏が会長に就任。

2021（令和3）年9月12日
講演会「つなごう日本の書道文化 ユネスコの無形文化遺産



末松大臣から井茂会長へ保持団体認定書の交付

に「ユネスコの遺産事業としての無形文化遺産」を山口県・国際ホテル宇部で開催。講師は佐藤地氏（元ユネスコ日本政府代表部特命全権大使）。

2021（令和3）年12月2日
10月の文化審議会答申に基づき、「書道」が初の登録無形文化財に決定。日本書道文化協会が末松信介文部科学大臣から「書道」の保持団体に認定される。

2022（令和4）年5月18日
書道国会議員連盟が次のユネスコ無形文化遺産提案候補を「書道」とすることを政府に求めることを決議し、翌月、塩谷立会長他が末松文部科学大臣に決議文を手交して要望。

2023（令和5）年5月10日
書道国会議員連盟総会において、議連に対し次のユネスコ登録提案候補を「書道」とする要望書を、日本書道ユネスコ登録推進協議会と日本書道文化協会の連名で提出。

2023（令和5）年5月23日
書道国会議員連盟は次のユネスコ登録提案候補を「書道」とすることを政府に求めることを再決議。

2023（令和5）年6月～8月
「書道」をユネスコ登録提案候補にするための書道団体活動実態調査を実施。289団体に

調査票を送付し、135団体から回答を得ている。

2023（令和5）年11月18日
日本書道ユネスコ登録推進協議会と日本書道文化協会の主催、書道国会議員連盟の協力で「書道」のユネスコ無形文化遺産登録実現に向けての特別揮毫会を東京・竹芝のニューピアホールで開催。書道国会議員連盟所属の議員、文部科学省、文化庁、日本書道ユネスコ登録推進協議会役員、日本書道文化協会会員や美術館・博物館関係者、書道界から約400名が出席する大きなイベントとなった。



特別揮毫会（東京）・来賓と揮毫者

午前中は高等学校書道部の書道パフォーマンス（千葉県・中央学院高校書道部と長野県・松本蟻ヶ崎高校書道部）を実施。12時から新井光風先生、土橋靖子先生、永守蒼穹先生の実演作品展示と講話があった。

第51回「日本の書展」

関西展から九州展まで直轄4展の総出品数は3669点で前回から21点増加した。また、入場者数も全展で1万6076人で1422人増加し、開催披露祝賀会の出席者数も1586人と244人増え、コロナ禍以前の状況に戻りつつある。

関西展

令和5年5月3日(水・祝)

5月5日(金・祝)

マイドームおおさか(1・2階展示ホールA・S・D)

主催 (公財)全国書美術振興会、産経新聞社、後援 文化庁、大阪府、協賛 (公社)日本書道会

出品数は、現代書壇巨匠16点、現代書壇代表110点(計126点が全展を巡回)、委嘱39点、招待456点、秀拔選551点、合計1172点、入場者数は1443人だった。産経新聞紙面で展覧会紹介をして



関西展会場



関西展祝賀会



伊藤富博産経新聞社事業本部長



高木聖雨理事長

5月3日(水・祝)、リーガロイヤルホテル「光琳の間」で467人の出席による開幕祝賀会を行った。高木聖雨代表理事・理事長、田中壮一郎代表理事・会長から主催者挨拶、産経新聞社伊藤富博事業本部長の共催者挨拶、文化庁吉野亨文化財



真神巍堂常務理事



土橋靖子理事



黒田賢一常務理事



吉野亨文化庁文化財調査官

調査官から来賓祝辞、黒田賢一常務理事の書家代表挨拶後、土橋靖子理事の乾杯発声で祝宴に入り、真神巍堂常務理事の閉会挨拶で終了した。

中部展

令和5年5月30日(火)

6月4日(日)

愛知県美術館ギャラリー(愛知芸術文化センター8階A・J)主催 (公財)全国書美術振興会、中日新聞社、後援 文化庁、愛知県、東海テレビ放送

協賛 (公社)中部日本書道会 出品数は、巨匠、代表の126点、委嘱16点、招待190点、秀拔選409点、合計741点、会期中の入場者数は2501人だった。中日新聞紙面での展覧会紹介、東海テレビ放送の放映があった。



中部展会場



鷺見卓中日新聞社取締役事業担当

5月30日(火)、名古屋東急ホテル「ヴェルサイユ」で345人の出席による開幕祝賀会を行った。高木理事長、田中会長の主催者挨拶、中日新聞社鷺見



鬼頭翔雲評議員



林泰敬東海テレビ放送取締役事業担当



樽本樹邨顧問



神田真秋中部日本書道会名誉会長

卓取締役事業担当の共催者挨拶、中部日本書道会神田真秋名誉会長の来賓祝辞、樽本樹郎顧問の書家代表挨拶後、東海テレビ放送林泰敬取締役事業担当の乾杯発声で祝宴に入り、鬼頭翔雲評議員の閉会挨拶で終了した。

東京展

令和5年6月15日(木)

6月25日(日)

国立新美術館(展示室1A・1D)

主催 (公財)全国書美術振興会
共同通信社

後援 文化庁

出品数は、巨匠、代表の126点、委嘱54点、招待655点、秀拔選822点に加え、関西展、中部展、九州展の委嘱63点も同時に展示し、総展示数は1720点になった。入場者数は9868人だった。

6月15日(木)、オークラ東京「平安の間」で640人の出席による開幕祝賀会を行った。高



東京展会場



河村建夫書道国會議員連盟名誉会長

木理事長、田中会長からの主催者挨拶に始まり、書道国會議員連盟河村建夫名誉会長の発声で先に乾杯を行った。共同通信社三土正司代表取締役社長の共催者挨拶へと続き、文部科学副大



東京展祝賀会



東京展会場・公募臨書



塩谷立書道国會議員連盟会長



末松信介書道国會議員連盟会長代行



築和生文部科学副大臣



三土正司共同通信社代表取締役社長

臣の築和生衆議院議員、書道国會議員連盟会長代行の末松信介参議院議員、書道国會議員連盟会長の塩谷立衆議院議員の来賓祝辞があり、書道国會議員連盟



九州展会場

令和5年7月4日(火)
7月9日(日)
〈第1会場〉福岡市美術館(2階ギャラリーA・F)
〈第2会場〉福岡県立美術館(3階展示室1・4号室)
主催 (公財)全国書美術振興会
西日本新聞社
後援 文化庁、福岡県
出品数は、巨匠、代表の126点、委嘱8点、招待140点、秀拔選203点、合計477点、

九州展



星弘道常務理事

事務局長の関芳弘衆議院議員を紹介した。井茂圭洞名誉顧問の書家代表挨拶後祝宴に入り、星弘道常務理事の閉会挨拶で終了した。



松清秀仙評議員



石原進福岡市文化芸術振興財団理事長



島谷弘幸九州国立博物館館長



安武弘子西日本新聞社営業本部次長

会期中の入場者数は2264人だった。西日本新聞紙面で展覧会紹介をしている。
7月4日(火)、西鉄グラ
ンドホテル「プレジール」で

134人の出席による開幕祝賀会を行った。高木理事長、田中会長から主催者挨拶、西日本新聞社安武弘子営業本部長の共催者挨拶、独立行政法人国立文化財機構理事長で九州国立博物館島谷弘幸館長の来賓祝辞、福岡市文化芸術振興財団石原進理事長の乾杯発声で祝宴に入り、松清秀仙評議員の閉会挨拶で終了した。

公募臨書（東京展会場内）

令和5年6月15日（木）
～6月25日（日）
国立新美術館（展示室1Dの一部）

書の基本である臨書に限った公募展で、今回が12回目。応募数は1135点。当会役員で構成される審査員10人による厳正な審査が行われ、その中から476点（漢字350点、かな98点、篆刻28点）が入選し、表装された作品は第51回「日本の書展」東京展の会場内に前期と後期に分けて展示された。作品は展示終了後、入選證と一緒に入選者に届けられた。

巡回展

例年どおり「日本の書展」の直轄4展の終了後、現代書壇巨匠、現代書壇代表の作品126点に、地元有力作家の作品を加えて、当会と共同通信社、地元各新聞社の共催、文化庁後援のもと全国8会場を巡回している。第51回展は予定通り開催さ

れている。

米子（山陰中央新報社）

令和5年9月1日～9月4日

米子市美術館

青森（東奥日報社）

令和5年9月8日～9月11日

News TO-Oビル 3階催事場

富山（北日本新聞社）

令和5年9月15日～9月18日

富山県民会館

岡山（山陽新聞社）

令和5年10月11日～10月16日

天満屋岡山店 6階葦川会館

広島（中国新聞社）

令和5年10月24日～10月29日

広島県立美術館県民ギャラリー

奈良（奈良新聞社）

令和6年2月20日～2月24日

奈良県コンベンションセンター

長野（信濃毎日新聞社）

令和6年3月7日～3月10日

長野県立美術館

茨城（茨城新聞社）

令和6年4月13日～4月18日

茨城県立県民文化センター

子どもの毛筆体験教室

「筆もじにトライ！」

2023 開催

令和5年8月18日（金）

～8月20日（日）

国立オリンピック記念青少年総合センター スポーツ棟（地下1階「第4体育室」）

スケジュール

8月18日（金）

A 10時30分～11時40分

B 13時30分～14時40分

C 15時40分～16時50分

8月19日（土）
D 10時30分～11時40分
E 13時30分～14時40分
F 15時40分～16時50分
G 10時30分～11時40分
H 13時30分～14時40分



筆もじにトライ！ 2023

今回も、国立青少年教育振興機構の「子どもゆめ基金」からの助成を受け開催した。昨年はコロナ禍のために8月の予定を12月に移して開催したが、今年は同じ渋谷区の国立オリンピック記念青少年総合センター施設内で8月に開催した。体験日3日間とも熱中症警戒アラートが発表されるような猛暑日で、その影響か、数日前からキャンセルが続き、定員288人のところ、体験者は129人だった。水書き、墨磨り、自分で選んだうちに線や文字で仕上げる体験だが、同伴の保護者にも子どもと一緒に体験に参加してもらった。



筆もじにトライ！ 体験風景

日本書道ユネスコ登録推進協議会の活動報告 （令和5年2月以降） 「書道のユネスコ登録に係る要望活動」

書道国会議員連盟と一緒にユネスコ登録に向けて様々な要望活動を行なった。

▼令和5年2月2日 永岡桂子文部科学大臣を表敬訪問し、ユネスコ登録を要望した。出席者は塩谷立書道国会議員連盟会長、関芳弘同事務局長、田中壮一郎会長、井茂圭洞副会長、高木聖雨副会長、星弘道副会長。
▼令和5年5月10日 書道国会議員連盟総会において書道のユネスコ無形文化遺産登録の要望書を提出、議員連盟がユネスコ登録に係る再決議を決定。同日に要望書を議連所属各議員に配布。▼令和5年5月23日 菅義偉前総理、松野博一官房長官に書道議連と共に書道のユネスコ無形文化遺産登録の要望書を提出。この他にも有力議員に要望書を提出している。

【「書道」のユネスコ無形文化遺産登録実現に向けての特別揮毫会を実施】

書道国会議員連盟からの提案を踏まえ、令和5年11月18日（土）に東京・竹芝のニューピアホールで登録実現に向けての特別揮毫会を開催した。書道国会議員連盟所属の議員、文部科学省、文化庁、日本書道ユネスコ登録推進協議会役員、日本書道文化協会会員や美術館・博物館関係者、書道界から約400名が出席する大きなイベントとなった。

午前中は高等学校書道部の書道パフォーマンス（千葉県・中央学院高校書道部と長野県・松本嶺ヶ崎高校書道部）を実施。12時から新井光風先生、土橋靖子先生、永守蒼穹先生の作品揮毫と講話があった。

日本書道文化協会の活動報告 （令和5年1月以降）

日本書道文化協会は令和3年8月26日に設立総会を開き、同年12月に初の登録無形文化財に登録された「書道」の保持団体に認定されている。書道の伝統的な書法を受け継ぎ、未来へとつないでいくために、書道の技の保存と向上を図ることを目的として、積極的な活動を展開している。

【令和5年度の登録無形文化財「書道」特別揮毫会の開催】文化庁補助事業】

（名古屋会場）電気文化会館

令和5年6月4日(日)
13時～15時 参加者約250名
講師・揮毫者 鬼頭翔雲、近藤浩平、風岡五城

〔福岡会場〕福岡市美術館ミュージアムホール
令和5年7月5日(水)

13時～15時 参加者約180名
講師・揮毫者 石飛博光、伊藤仙游、森上光月

〔高等学校等への会員書家の派遣事業の実施〕文化庁補助事業〕

令和5年3月14日(火)
埼玉県・私立本庄東高等学校
講師 土橋靖子

令和5年3月29日(水)
奈良県立桜井高等学校(畝傍高等学校と共同)

講師 中村伸夫
令和5年4月16日(日)
千葉県立国府台高等学校

講師 遠藤 強
令和5年5月24日(水)
広島県立熊野高等学校

講師 牛窪梧十
令和5年10月8日(日)
市立札幌平岸高等学校

講師 室井玄簪

〔街なか書道体験の実施〕

「書道」を保護継承していくために、新たな普及活動の一環として、街なかでの書道体験の場を作っていく事業「街なか書道体験」を実施。「般若心経」と「いろは歌」のなぞり書きができるように、著名書家の手本を基に制作した用紙に、いろいろな場所、施設を訪れた方や通りますがりの方に書道体験ができ

るようにしている。様々な書道関連イベント会場での書道体験コーナーを設けて実施している。

1月～2月 日本書芸院主催
〔全国シルバー書道展〕広島展、大阪展等

2月12日 世田谷区等主催「第6回せたがや国際メッセ」(日大文学部)

2月18日 京都府等主催「京都まるごと芸術祭」(亀岡市で開催)

3月5日 兵庫県「伝統文化ふれあい広場」イベント(兵庫県公館)

3月18日 謹慎書道会展席上揮毫会(池袋サンシャインシティ噴水広場)

3月～4月 傘寿記念辻元大雲回顧書展(袖ヶ浦市郷土博物館)

6月11、25日 第1回兵庫県書写・書道フェスティバル(兵庫書写・書道教育協会主催 デザインクリエイティブセンター神戸)

8月23日 大津市立図書館主催「街なか書道体験」(図書館第2弾)

10月14日 日本書芸院主催「手書き文字ばんざい!」(大阪OMMビル)

10月28日 国立青少年教育振興機構主催「秋のキッズフェスタ」(国立オリンピック記念青少年総合センター)

〔書道文化に関する研究助成を開始〕
日本の伝統的な書道文化、書

法の継承や普及、発展、書道教育等に寄与することを目的として、次代を担う40歳未満の若手の研究者、書家の育成を図るために「研究助成」を実施することになり、令和5年4月から募集を開始した。日本の伝統文化としての書道の継承と発展に関する各種観点からの研究で、7つのテーマに沿った研究計画書を提出してもらい、10名の応募があった。協会役員4名の審査委員による審査の結果、9月1日に3名の採択が決定し、助成金各30万円を授与した。3名は提出研究計画書に沿って1年間、研究を進め論文作成をし、本年12月には論文集発行とホームページ掲載をする。研究計画書提出から論文完成まで1年半以上かかることなどから、この「研究助成」は隔年で実施することになった。次の募集は令和7年4月から開始する。

〔賛助会員の状況〕

令和6年1月31日現在、団体会員63団体の73口、個人会員7名の10口の加入となっている。

〇事務局

東京都港区赤坂2-11-1 デルックス溜池山王 全国書美術振興会内
TEL 03-3568-2071
FAX 03-3568-2072
メールアドレス
info@nihonsyodobunka.jp
ホームページ
https://www.nihonsyodobunka.jp/

書写・書道教育推進協議会の活動報告

書写に係る教員研修等のためのテキストが完成

令和3年6月の書道国会議員連盟総会において、文部科学省から教員研修用の指導テキスト作成の提案を受け、協議会では作業部会を設けて、小学校3年以上の書写指導のガイドライン(教員研修用指導テキスト)の検討を続けており、「国語科書写の指導において身に付けるべき毛筆実技に関わるガイドライン」(本文15ページ)として令和6年春に完成予定。テキストではQRコード読み取りによる動画配信も行う。文部科学省の協力のもとに、各都道府県・市町村教育委員会に配布し周知を依頼する。

展覧会案内

第52回「日本の書展」(予定)

※開催内容が変更となる場合あり。

関西展

令和6年5月1日(水)
5月3日(金・祝)
マイドームおおさか(1・2階展示ホールA～D)
午前10時～午後5時「最終日は午後4時まで」
主催 (公財)全国書美術振興会、産経新聞社
後援 文化庁、大阪府
協賛 (公社)日本書芸院

中部展

令和6年5月28日(火)
5月2日(日)
愛知県美術館ギャラリー(愛知芸術文化センター8階A～J)
午前10時～午後6時「最終日は午後4時まで、入場は各日とも閉場30分前まで」
主催 (公財)全国書美術振興会、中日新聞社
後援 文化庁、愛知県、東海テレビ放送
協賛 (公社)中部日本書道会
〇ギャラリートーク
6月1日(土) 午後2時
吉澤劉石(かな・現代書壇代表)

東京展

公募臨書

令和6年6月13日(木)
6月23日(日)
(18日(火)は休館日)
国立新美術館(展示室1A～1D)
午前10時～午後6時「入場は午後5時30分まで」
主催 (公財)全国書美術振興会、共同通信社
後援 文化庁
〇ギャラリートーク
6月15日(土) 午後2時
角元正燦(漢字・現代書壇代表)
6月22日(土) 午後2時
下谷洋子(かな・現代書壇巨匠)

九州展

※二会場で開催

令和6年7月2日(火)

7月7日(日)

〈第1会場〉福岡市美術館(2階
ギャラリーB・F)

現代書壇巨匠、現代書壇代表、
委嘱

午前9時30分〜午後5時30分

「5日(金)および6日(土)は午
後8時まで、入場は各日とも閉
場30分前まで」

〈第2会場〉福岡県立美術館(3
階展示室1・4号室)

招待、秀拔選

午前10時〜午後6時「最終日は
午後4時まで、入場は各日とも
閉場30分前まで」

主催 (公財)全国書美術振興会、
西日本新聞社

後援 文化庁、福岡県

○ギャラリートーク

7月3日(水) 午後2時〜

第1会場 福岡市美術館

岩田海道(漢字・現代書壇代表)

巡回展

現代書壇巨匠・代表の全作品
が、当会と共同通信社、地元各
新聞社の共催、文化庁後援のも
と全国を巡回。

島根 (山陰中央新報社)

令和6年8月22日〜8月26日

島根県立美術館ギャラリー

富山 (北日本新聞社)

令和6年9月14日〜9月16日

富山県民会館

青森 (東奥日報社)

令和6年9月20日〜9月23日

New's T.O.O. 3階催事場

広島 (中国新聞社)

令和6年10月1日〜10月6日

広島県立美術館県民ギャラリー

岡山 (山陽新聞社)

令和6年10月16日〜10月21日

天満屋岡山店 6階葦川会館

長野 (信濃毎日新聞社)

令和7年3月6日〜3月9日

長野県立美術館

奈良 (奈良新聞社)

令和7年3月26日〜3月30日

奈良県コンベンションセンター

茨城 (茨城新聞社)

令和7年4月12日〜4月17日

ザ・ヒロサワ・シティ会館(茨
城県立県民文化センター)

子どもの毛筆体験教室
「筆もじにトライ!」
2024 (予告)

初めて毛筆に触れる子どもや
毛筆経験が浅い子どもを対象と
した書道体験教室。うちわや色
紙に、墨と筆で文字や線などを
書き、色画用紙で型抜きした模
様を飾り付け、筆もじ飾りを仕
上げる。書道に関するクイズ、
水書きシートや墨磨り体験を
し、90分間の活動の中で毛筆の
楽しさを体験してもらう。

令和6年8月16日(金)

8月18日(日)

国立オリンピック記念青少年総
合センター スポーツ棟地下1
階「第3体育室(東京都渋谷区)

募集対象 3才〜小学校4年生
の子ども(保護者同伴必須、保
護者も体験できる)

参加費・材料費 無料

定員 各回60人 計360人

スケジュール

8月16日(金)

A 11時〜12時30分

B 14時30分〜16時

8月17日(土)

C 11時〜12時30分

D 14時30分〜16時

8月18日(日)

E 10時〜11時30分

F 13時30分〜15時

申込み受付期間

詳細は4月以降、当会ホーム
ページにて公開。申込みは専用
申込みフォームのみにて受付の
予定。

※開催内容が変更となる場合あり

全国書美術振興会 役員

※〇印 新任

代表理事・会長

田中壮一郎

代表理事・理事長

高木 聖雨

業務執行理事・常務理事

大平 匡昭 黒田 賢一

仲川 恭司 星 弘道

眞神 巍堂

理事

明石 聰濤 有岡 郷崖

伊藤 一翔 牛窪 梧十

角元 正燦 高木 厚人

田中 徹夫 辻元 大雲

土橋 靖子 長井 素軒

中村 伸夫 永守 蒼穹

西村 東軒

監事

室井 玄尊 古澤 鐵之

和中 簡堂

※任期 令和4年11月28日〜令和6年開
催予定の定時評議員会の終結時まで

評議員

石澤 桐雨

井上 清雅

岩田 海道

植松 龍祥

大澤 城山

大森 拓

金子 大蔵

佐井 麗雪

霜鳥 秋則

田頭 一舟

歳森 芳樹

○橋本 英明

福光 幽石

松清 秀仙

松村 博峰

宮負 丁香

山内 香鶴

山本 高邨

吉澤 石琥

吉田 成美

荒船 清彦

尾崎 邑鵬

新井 光風

石飛 博光

樽本 樹邨

飯高 和子

市澤 静山

今村 桂山

加藤 子華

芝 松翠

師村 妙石

鈴木 春朝

辻元 邑園

中川 裕皓

檜崎 華祥

原田 上

伊藤 仙游

井之上南岳

岩永 栖邨

海野 涛山

○大田 鵬雨

岡野 楠亭

鬼頭 翔雲

笹原 宏之

鈴木 響泉

高橋 利郎

○野田 正行

深瀬 裕之

舟尾 圭碩

○真鍋 井蛙

森上 光月

山中 翠谷

吉川美恵子

吉澤 大淳

井茂 圭洞

池田 桂鳳

杭迫 柏樹

中野 北溟

石田 雲鶴

○井上 映粧

○尾崎 蒼石

師田 久子

清水 透石

鈴木 一敬

田中 節山

内藤 富卿

小林 落風

西村 自耕

藤岡 都逕

前島 泉洲

宮崎 葵光

村上 俄山

森川 星葉

○山根 互清

横山 煌平

吉川 蕉仙

三神 榮軒

村井 虹城

望月 和風

八木 山鈴

悠雲

※就任日 令和5年11月28日

書美術功労者の顕彰

文化勲章を受章された井茂圭
洞名譽顧問、文化功労者となら
れた黒田賢一常務理事、日本芸
術院賞を受賞された永守蒼穹理
事の功労を顕彰し、記念品を贈
呈した。

近年物故者

令和5年1月以降

次の役員の先生方が逝去され
ました。謹んで哀悼の意を表し
ます。

梅原清山先生(顧問)

令和5年1月25日 100歳

岡田契雪先生(参事)

令和5年3月22日 87歳

一色白泉先生(参事)

令和5年6月7日 85歳

鈴木 勲先生(名誉顧問)

令和5年7月16日 98歳

日比野光鳳先生(名誉顧問)

令和5年8月23日 94歳

事務所のご案内

〒107-00052

東京都港区赤坂2-11-1 デルッ

クス溜池山王6階

03-3566-2071

03-3566-2072

ホームページ <http://shobi.or.jp/>

メールアドレス info@shobi.or.jp